

医療関係者用

平成24年〇月〇日

〇〇医師会
会員 各位

がん診療連携拠点病院
〇〇病院
院長 〇〇〇〇

子宮体がん地域連携パスへの参加について（依頼）

〇〇の候、皆様にはますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

平素は、がん治療における当院との連携に格別の御理解、御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、がん対策基本法に基づくがん対策推進基本計画及びがん診療連携拠点病院の指定要件の見直しに伴い、5大がん（肺がん、胃がん、肝がん、大腸がん、乳がん）の地域連携パスは整備が進み、その運用が始まっています。次に婦人科がんにおいてもその整備が求められており、まず子宮体がんの地域連携パスの運用から開始していきたいと考えています。がん診療における医療機関の役割分担と地域連携を進めることで、がん医療の質の保証と安全の確保を図ることがパスの目的となっています。

「地域連携パス」とは、患者さんを中心に地域のかかりつけ医（連携医）と〇〇〇〇〇〇病院の担当医が、患者さんの治療経過を共有できる「地域連携計画書」のことで、関係する医療機関が協力して作成する診療役割分担表、連携診療計画表及び患者用連携診療計画表から構成される、がん患者に対する診療全体を体系化したものをいいます。

この「地域連携パス」を活用することで、地域のかかりつけ医（連携医）と〇〇〇〇〇〇病院とが協力して情報交換を行い、患者さんの視点に立った、安心して質の高い医療を提供する体制を構築することを目指しています。また、患者さんにとっても長い待ち時間や通院時間の短縮などの負担軽減や、ご自身の治療計画や経過の把握、かかりつけ医の手厚い診療による不安の解消といった利点にもつながります。

「がん地域連携パス」の主旨をご理解いただき、地域連携パスの推進に御参加をよろしくお願い申し上げます。

お問い合わせ：がん診療連携拠点病院
〇〇〇〇病院
地域医療連携室
Tel:000-000-0000（代表）
Fax:000-000-0000（直通）

(1) 対象患者

子宮体がんの術後連携パスの対象患者さんは、原則として以下のすべてを満たす方としています。

- ・ 告知済み
- ・ 子宮体癌 I A 期 (日産婦 2011 FIGO2008)
- ・ 子宮体がん治癒切除術後 (単純子宮全摘術あるいは準広汎子宮全摘術±骨盤内リンパ節郭清術) 原則、骨盤内リンパ節郭清術実施症例
- ・ 組織型が類内膜腺癌 G1 か G2
- ・ 術後追加治療の必要なし
- ・ 術後状態が安定している
- ・ 直近の検査で異常なし

(2) 地域連携パスの説明と同意取得

計画策定病院 (専門医) は、患者に対して連携医療機関 (かかりつけ医) と連携して診療を行う旨を説明し、連携パスの同意を取得します。

(3) 連携医療機関の先生の初回診療日の確認 (予約)

患者さんから「連携パス」導入の同意が得られれば、担当者から初回診療日の確認 (予約) の Fax または電話をさせていただきます。予約が必要な場合は、予約日時をお知らせください。

子宮体がん術後連携パス (医療者向け) : 患者基本情報と今後の診療予定、異常時の FAX 連絡用紙をお送りいたします。

(4) 連携医療機関の先生の初回診療時と毎回診療時

初回診療時には、患者さんに以下のものを持参していただきます。

- ・ 診療情報提供書 (必要時)
- ・ 連携ノート (患者様用) : 診療所見と検査結果を記入、検査結果のファイルをお願いします。異常時には FAX 連絡用紙にて連絡をお願いいたします。また、患者さんには自己チェック表にて気になることを受診までに記入していただきますので参考にしてください。

(5) 診療スケジュール

術後状態が安定した時期から連携医療機関 (かかりつけ医) の受診としています。連携医療機関 (かかりつけ医) は術後 9 カ月目から 6 カ月毎に診察をお願いいたします。計画策定病院でも 6 カ月毎の診察を行い、CT 等の画像検査も実施します。詳細はスケジュール表をご確認ください。

(6) 計画策定病院受診の前に

計画策定病院への定期受診前の診療時には、必要であれば診療情報提供書を記載していただき、患者さんにお渡しください。

(7) 連携パスの運用期間

- ・ 計画策定病院での定期受診は 5 年目までを目途としています。
- ・ 途中で再発を認め治療を行った場合は 5 年目以降もフォローします。
- ・ 定期受診日以外でも必要があれば計画策定病院の受診を患者さんに案内してください。

(8) バリエーション例 (逸脱例)

連携医療機関 (かかりつけ医) において、診療経過表に記載された項目に異常を認めた場合は計画策定病院 (専門医) への紹介を推奨します。

診療経過表に示した条件以外の場合でも診療上不明な点は計画策定病院にお問い合わせ

わせください。

また計画策定病院は連携パスの適用を中止する逸脱バリエーションとすべきか、診療後再び連携医療機関（かかりつけ医）に管理を依頼するかを判断してください。

(9) 患者の緊急時の対応

患者の緊急時などは、患者の状態及びこれまでの治療経過等を踏まえ、連携医療機関と計画策定病院が連絡をとり、適宜適切な対応をとることとします。（別紙マニュアルあり）

(10) お問い合わせ先

〇〇〇〇病院

地域医療連携室

TEL: 〇〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇

FAX: 〇〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇

子宮体がん治療基本情報

パス開始年月日	平成 年 月 日
アレルギー歴	
禁忌薬	

入院時情報	入院日	平成 年 月 日	病名	子宮体癌
	退院日	平成 年 月 日		
	併発疾患		進行期	<input type="checkbox"/> I A 期
	既往歴	<input type="checkbox"/> 糖尿病 <input type="checkbox"/> 脂質異常症 <input type="checkbox"/> 高血圧 <input type="checkbox"/> 静脈血栓症 <input type="checkbox"/> 心筋梗塞・狭心症	組織型	<input type="checkbox"/> 類内膜腺癌
			組織グレード	<input type="checkbox"/> G1 <input type="checkbox"/> G2
			浸潤径	mm 筋層の /
閉経			<input type="checkbox"/> 前 <input type="checkbox"/> 後 <input type="checkbox"/> 不明	

入院中の経過	手術日	西暦 年 月 日	
	術式	<input type="checkbox"/> 単純子宮全摘術 <input type="checkbox"/> 準広汎子宮全摘術 <input type="checkbox"/> 広汎子宮全摘術 骨盤リンパ節郭清 <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし 傍大動脈リンパ節廓清 <input type="checkbox"/> あり (b1,b2) <input type="checkbox"/> あり (b2) <input type="checkbox"/> なし 卵巣摘出 <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	
		輸血	<input type="checkbox"/> あり (<input type="checkbox"/> 自己血 <input type="checkbox"/> 同種血) <input type="checkbox"/> なし
		特記事項	

退院時情報	副作用歴	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり (薬剤名)
	感染症	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり (具体的に)
	ホルモン補充療法	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり (薬剤名)
	退院時処方薬	

がんの地域連携パス 緊急時連携体制確認表

(各拠点病院でマニュアルを作成し連絡体制を再確認する)

対処方法と連絡先			
所見・症状	対処法 * 下記欄外をご参照下さい (直接ご記入も可)	連絡先・担当責任者名 (不在時の担当者名)	緊急連絡方法 (電話番号、Fax 番号) など
再発が疑われるとき	症状がないか、もしくは症状があるが差し迫った生命の危険はないと思われるとき	b.極力近い時点での拠点病院等の外来受診を指示し、外来の診察予約をとる。	000-000-0000 (代表)。地域連携室担当者(看護師〇〇課長) 必要時は当該科担当医、当該科オンコール医師、各科科長、担当部長の順。
治療による副作用が疑われるとき	症状がないか、症状があるが差し迫った生命の危険はないと思われるとき	b	以下、すべて同上
	差し迫った生命の危険があると思われるとき	c, d. 原則として電話連絡の後、即日拠点病院受診を指示。状況に応じて、連携病院(救急病院)受診を指示する(事前に患者家族と相談して決めておく)。	以下、すべて同上
その他合併症が疑われるとき	症状がないか、症状があるが差し迫った生命の危険はないと思われるとき	b	
	差し迫った生命の危険があると思われるとき	c, d.	
その他パスから逸脱したとき	たちまちには危険がないとき、今後の症状悪化が心配されるが、差し迫った生命の危険はないと思われるとき	b	
	差し迫った生命の危険があると思われるとき	c, d.	
<p>*対処方法例：</p> <p>a. 2週間をめどに拠点病院等の外来受診を指示し、外来の診察予約をとる。</p> <p>b. 極力近い時点での拠点病院等の外来受診を指示し、外来の診察予約をとる。</p> <p>c. 電話連絡ののち、即日拠点病院受診を指示する。</p> <p>d. 救急病院受診を指示する。 e. その他、ご自由に記入下さい</p>			

不測の事態が発生した場合は、連携する全ての医療者が協力して解決に当たります。
緊急時、重篤症状で、連携医が対応困難な場合は、緊急対応表をご参照下さい。

決定した連携医療機関の一覧

(病院、診療所、調剤薬局、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所等)

医療機関名	連携医	連携病院	拠点病院
名称 連絡先			
担当医			
担当看護師			
連携室担当者			

	調剤薬局	訪問看護ステーション	居宅介護支援事業所等
連絡先			
担当者			

【上記への連絡方法と順番】

平日：1
2

夜間休日：1
2

平成 22 年 10 月 15 日

かかりつけ医からの緊急相談における電話対応の具体例

この電話対応の具体例は、病院・診療所はじめ地域連携に関係する皆さんのために、診療所かかりつけ医からの緊急相談時の対応について、よくある普通のやり取りを例にあげて記載しておりますので、参考にいただければ幸いです。電話でのやり取りは簡単そうで案外難しく、とくに時間外や深夜には短い言葉で意思疎通を図ることからややもすれば言葉足らずになりかねず、時に言葉ひとつでお互いの感情を害することは絶対避けたいものです。地域連携を担う者同士、円滑な連携のために敬意を持って丁寧な会話を心がけていただくことを切にお願い致します。

ケース 1：病院の通常診療中における対応（午前 10 時頃）

ケース 2：病院の診療がほぼ終了し、診療所では午後診が続く時間帯における対応（午後 6 時頃）

ケース 3：深夜、患者の様態が急変し、近隣での受け入れが困難で診療相談を受けた場合の対応

ケース 1（午前 10 時頃）

病院（電話交換士）：

こちらは〇〇〇〇病院です。どのようなご用件でしょうか？

診療所：

こちらは〇〇市〇〇区の〇〇クリニックの院長〇〇です。がん地域連携パスを利用している患者さん、〇〇さんの件で、緊急に担当の方にご相談したいのですが。

病院（電話交換士）：

地域連携室の担当者におつなぎしますので、しばらくお待ち下さい。

病院（地域連携室）：

もしも、お待たせしました。地域連携室のMSWの〇〇（看護師の△△、事務の□□）と申します。いつも大変お世話になりありがとうございます。

診療所：

こちらこそお世話になっております、〇〇クリニックの〇〇です。お忙しいところ急な連絡で申し訳ないのですが、地域連携パスを利用されている〇〇さんが、今朝の 3 時頃から急な腹痛で嘔吐が続き、今朝 10 時頃当院に来られました。大腸がん術後のイレウスの疑いがあり、輸液を続けながら経過を見ましたが、状態が悪化しており、入院する必要があると判断し、近隣の連携病院に依頼をしましたが、あいにく対応困難とのことで困っております。診察をお願いできないでしょうか・・・。

病院：

わかりました。主治医に連絡を取り、折り返しご連絡いたします。念のため、医院の電話番号を教えてくださいませんか？

診療所：

電話番号は・・・です。よろしくお願いします。

.....

病院：

もしも、〇〇クリニックですか、こちらは〇〇病院地域連携室の〇〇と申します。先ほど貴院からご連絡を頂きました〇〇さんの件で、〇〇先生とお話したいのですが。

診療所：

はい、わかりました。院長と代わりますので、しばらくお待ち下さい。

.....

もしも、院長の〇〇です。

病院：

もしも、地域連携室MSWの〇〇です。〇〇さん担当の〇〇医師に変わります。

.....

もしも、担当の〇〇です。現在どのような状態でしょうか。

.....

以下続く

ケース2(時間外、午後6時頃)

病院(電話交換士)・・・この場合はケース1とほぼ同様の対応

病院(救急外来、電話交換士から救急外来)・・・救急外来の窓口で対応する場合でも、がん地域連携パスを利用している患者さんであることを伝えることによって、それなりの対応をお願いします。

病院(保安員など)・・・保安員などに対して、診療相談への対応の研修が十分に行われていない病院あり。以下、このケースについて記載します

病院(保安員)

こちらは〇〇〇〇病院です。どのようなご用件でしょうか。

診療所:

こちらは〇〇市〇〇区の〇〇クリニックの院長〇〇です。がん地域連携パスを利用している患者さん、〇〇さんの件で、緊急に担当の方にご相談したいのですが。

病院(保安員):

わかりました。当直におつなぎします。

病院(保安員)

もしも、〇〇クリニックの〇〇先生から、がん地域連携パスを利用している患者の〇〇さんの件で、緊急相談の電話が入っています。

病院(緊急対応担当の、当直医師または当直看護師)

わかりました。代わります。

.....

もしも、当直医師(看護師)の〇〇です。日頃お世話になっております。どのような状況でしょうか。

診療所:

こちらこそお世話になっております、〇〇クリニックの〇〇です。時間外に申し訳ないのですが、地域連携パスを利用されている〇〇さんの件でお願いしたいのです。今朝の3時頃から急な腹痛で嘔吐が続き、10時頃当院に来られました。大腸がん術後のイレウスの疑いがあり、輸液を続けながら経過を見ておりましたが、状態が改善せず、入院する必要があると判断し、近隣の連携病院に依頼をしましたが、あいにく対応困難とのことで困っております。患者さんも希望されているのですが、診察をお願いできないでしょうか.....

病院:

わかりました。主治医に連絡を取り、折り返しご連絡いたします。念のため、そちらの電話番号を教えてくださいませんか?

診療所:

番号は.....です。

.....

病院:

もしも、〇〇クリニックですか、こちらは〇〇〇〇病院地域連携室の〇〇と申します。先ほどそちらの〇〇先生からご連絡をいただいたのですが.....

診療所:

はい、わかりました。院長と代わりますので、しばらくお待ち下さい。

.....

もしも、院長の〇〇です。

病院:

〇〇さん担当医師の〇〇です(担当医不在のため、代わりに〇〇が対応させていただきます)。お世話になっております。診察させていただきます。夜間受付でお名前を言って下さればわかるように連絡しておきます。到着は何時頃になりますか。

診療所:

ありがとうございます。助かります。なるべく早く午後7時頃には行けると思います。

・・・以後続く

ケース3(深夜、午後11時頃)

病院(保安員)

こちらは〇〇〇〇病院です。どのようなご用件でしょうか。

診療所:

こちらは〇〇市〇〇区の〇〇クリニックの院長〇〇です。こんな時間に申し訳ないですが、がん地域連携パスを利用している患者さんの件で、緊急にご相談したいのですが。

病院(保安員):

わかりました。当直におつなぎします。

病院(保安員)

もしも、〇〇クリニックの〇〇先生から、がん地域連携パスを利用している患者さんの件で、ご相談があるとの電話が入っています。

病院(当直医師または当直看護師)

わかりました。代わります。

.....

もしも、当直医師(看護師)の〇〇です。日頃お世話になっております。どのような状況でしょうか。

診療所:

こちらこそお世話になっております、〇〇クリニックの〇〇です。こんな時間に大変申し訳ないのですが、がん地域連携パスを利用されている〇〇さんの件でお願いしたいのです。今朝の3時頃から急な腹痛で嘔吐が続き、10時頃当院に来られました。大腸がん術後のイレウスの疑いがあり、輸液や浣腸で症状が軽快したため一旦帰宅し明日再診の予定でしたが、先ほど患者さんから電話があり、状態が改善せず非常に苦しいそうです。そちらの病院で診てもらえないかとの相談を受けました。とても苦しくて朝までまてないとのことで、近隣の連携病院にも入院依頼をしましたが、受け入れ困難とのことで困っております。何とか診察をお願いできないでしょうか.....。

病院:

わかりました。担当医に連絡を取り、折り返しご連絡いたします。念のために連絡先の電話番号を教えてくださいませんか?

診療所:

電話番号は.....です。

.....

病院:

もしも、〇〇先生ですか、先ほど電話を頂いた〇〇〇〇病院の〇〇です。担当の〇〇に連絡済みですので、どうぞすぐに来て下さい。夜間受付でお名前を言って下さればわかるように連絡しておきます。到着は何時ごろになりますか。

診療所:

ありがとうございます。助かります。なるべく早く、午後12時頃には行けると思いますので、どうぞよろしくお願ひします。

・・・以後続く

以上